

根津鋼材

新システム「NOW」リリース

加工発注業務を効率化

各種データのリアルタイム情報共有も

独立系有力コイルセンターの根津鋼材（本社・東京都荒川区、社長・根津訓光氏）は、このほど、加工発注業務を効率化する新システム「Nezu Order system for Web (NOW)」を開発した。ユーザーの加工依頼業務の負担軽減に加え、搬入依頼や在庫データなどの情報を一元管理し、リアルタイムでの確認・記録を可能とする。6月のリリース以降、すでに複数の企業が導入を進めている。

新システム「NOW」は、加工依頼・出荷・在庫などに関する各種データを提供する発注システム。依頼書の作成に加え、在庫状況や配達進捗、納品書の閲覧などもシステム上でリアルタイムに確認できる。根津鋼材の社内システムと連携しており、加工予定日や配達予定時刻の可視化および共有に加え、運送会社向けの母材搬入書や荷渡指図書なども自動生成可能だ。

専用ソフトのインストールは不要で、クラウド上の専用サイトからログインする形式となっており、ユーザー側の基幹システムとの各種データとの連携（API）にも対応している。根津社長は「依頼書作成をはじめ、加工の発注業務に関わるさまざまなプロセスの効率化が期待できる」と述べ、リアルタイムでの情報共有やペーパーレス化のメリットも強調。ユーザーと当社の双方で業務効率化を図るDX化を、業界全体に広げていきたい」としている。

同社は1937年

（昭12）創業の独立系手掛けていた。5年前山運輸）によるデリバ有力コイルセンター。社内には「システムソリユーション事業部」があり、生産・物流・営業・業務全般に関する独自システムの開発を

